

胃及十二指腸潰瘍ノ「レントゲン線 放射療法ニ就テ

第1編 放射前ニ於ケル臨床的症狀

金澤醫科大學理學の診療科教室(主任平松助教授)

高橋二郎

庄司吉宗

(昭和11年12月28日受附)

(本編ノ要旨ハ既ニ昭和11年10月北陸醫學會ニ於テ發表濟)

目次

第1章 緒論	第1項 胃潰瘍
第2章 検査材料	第2項 十二指腸潰瘍
第3章 検査成績	第3項 前各項ノ小括
第1節 潰瘍ト性及年齢トノ關係	第5節 潰瘍ト過酸症狀トノ關係
第1項 胃潰瘍	第1項 胃潰瘍
第2項 十二指腸潰瘍	第2項 十二指腸潰瘍
第3項 前各項ノ小括	第3項 前各項ノ小括
第2節 潰瘍ト主訴トノ關係	第6節 潰瘍ト食慾並ニ便秘トノ關係
第1項 胃潰瘍	第1項 胃潰瘍
第2項 十二指腸潰瘍	第2項 十二指腸潰瘍
第3項 前各項ノ小括	第3項 前各項ノ小括
第3節 潰瘍ト疼痛ノ性質トノ關係	第7節 潰瘍ト便秘トノ關係
第1項 胃潰瘍	第1項 胃潰瘍
第2項 十二指腸潰瘍	第2項 十二指腸潰瘍
第3項 前各項ノ小括	第3項 前各項ノ小括
第4節 潰瘍ト壓痛部位トノ關係	第4章 總括

第1章 緒論

1908年 Brugel ガ始メテ胃潰瘍ニ際シテ、ソノ酸度ヲ減少セシムル目的ヲ以テ胃部ヲ放射シ、1913年 Kodon ガ胃潰瘍ニ對シテ系統的ノ「レントゲン線療法ヲ開始シ、始メテ5年間ニ於ケル18例ニ就テ何レモ「レントゲン線療法ニヨリ症狀ノ輕快シタコトヲ報告シ、1916年 Wilms モ亦幽門痙攣ニ對スル「レントゲン線療法ヲ賞用シタノデアアルガ、未ダ世人ノ注意ヲアマリ喚起シナカツタ。

然ルニ1921年 Schilze-Berge 及ビ Flaskamp ガ77例ニ就テ「レントゲン線ノ著効ヲ發表シ1922年及ビ1923年ニ Kotmaier ノ大ナル統計的觀察ノ發表セラレタル後 Lenk, Holzknacht 及ビ Sielmann 及ビ Matoni ガ胃潰瘍ノ「レントゲン線療法ニ關シテ良好ナル治驗ヲ發表ス

ルニ及ンデ俄然治療界ニ注目セラレルニ至ツタ。即チ氏ニヨレバ全例140, 内一部ハ2年半以上ノ経過ヲ見タモノデ77%ハ完全ナル治癒ヲ來シ 13.5%ハ輕快シ唯 9.5%ハ無効デアツタト云フ。

次デ Lenk, Bärsony 及ビ Friedrich, Schiller 及ビ Altrchul, Paluyuyay, Haudex, Kolta 及ビ Lömel, Manzinelli, Harth, Käding 等ノ發表相次デ現ハレ, 胃潰瘍並ニ十二指腸潰瘍ニ對スル「レントゲン線療法」ハ非觀血療法トシテ最モ効果アル方法トシテ治療界ニ君臨スルコトニナツタ。

茲ニ於テ余等モ亦昭和5年4月以降昭和11年4月ニ至ル當教室ニ於ケル胃並ニ十二指腸潰瘍ノ「レントゲン線治療」ヲ施行シタ結果ニ就テ報告ショウト思フ。

第2章 検査材料

昭和5年4月以降昭和11年4月ニ至ル當科教室ヲ訪レタル胃腸病患者中「レントゲン線検査」ノ結果, 胃並ニ十二指腸潰瘍ノ確信ヲ得タルモノ或ハ疑診ヲ得タルモノニ就テ數度ノ注意深キ便中潛伏出血ノ成績毎常陽性ノモノニ「レントゲン線深部治療」ヲ行ヒ比較的ヨク其ノ症狀経過, 放射中止後ノ状態ヲ觀察シ得タ胃潰瘍54例, 十二指腸潰瘍44例ヲ撰ンダ。

胃ノ「レントゲン検査」ニ際シテハ必ず同一状態ノ下ニ2回以上調査スル事ニ努メタガ特ニ胃潰瘍及十二指腸潰瘍ノ Nische ノ検査ニハ注意ヲ拂ツタ。即チ立位, 臥位, 仰位, 腹位, 横位等ノ體位ヲトラシメ硫酸バリウムヲ造影劑トシ, 時ニハ「ピロカルピン」或ハ「ババベリン」「アドレナリン」「アトロピン」ヲ應用シテ胃及十二指腸球部ノ充塞状態ヲ觀察シタ。

第3章 検査成績

第1節 潰瘍ト性及ビ年齢ノ關係

第1項 胃潰瘍

胃潰瘍患者54例ニ就テ此等ノ關係ハ第1表ノ如クデアル。

第 1 表

病 名	性別	年 齡	例 數 (%)	合 計 (%)	總 計
胃 潰 瘍	♂	10—19	0	47(87.0%)	54
		20—29	2(4.26%)		
		30—39	13(27.67%)		
		40—49	15(31.94%)		
		50—59	10(21.24%)		
		60—69	5(10.63%)		
		70—79	2(4.26%)		
	♀	10—19	1(14.3%)	7(13%)	
		20—29	1(14.3%)		
		30—39	0		
		40—49	1(14.3%)		
		50—59	4(57.1%)		
		60—69	0		
		70—79	0		

第2項 十二指腸潰瘍

十二指腸潰瘍44例ニ就テノ性及ビ年齢ノ關係ハ第2表ノ如クデアアル。

第 2 表

病 名	性別	年 齡	例 數 (%)	合 計 (%)	總 計
十二指腸 潰 瘍	♂	10-19	2(5.27%)	38(86.4%)	44
		20-29	3(7.90%)		
		30-39	10(26.35%)		
		40-49	14(36.84%)		
		50-59	9(23.64%)		
		60-69	0		
		70-79	0		
	♀	10-19	1(16.70%)	6(13.6%)	
		20-29	2(33.20%)		
		30-39	1(16.70%)		
		40-49	1(16.70%)		
		50-59	1(16.20%)		
		60-69	0		
		70-79	0		

第3項 前各項ノ小括

胃潰瘍全例54名中男子47名、女子7名デアツテ前者ハ87%、後者ハ13%ニ當リ、男子ノ數ハ女子ニ比シテ甚シク多數ヲ占メテキル。コノコトハ男子ノ生活方法ガ潰瘍ノ好發誘因ヲナスモノト思考セラレル。

十二指腸潰瘍ニ於テモソノ全例44名中男子38例(86.4%)、女子6例(13.6%)デアツテ矢張り男子ハ女子ニ比シテ著シク多數ヲ占メテキルノデアツテ、コレマタ胃潰瘍ト同様ニソノ原因ヲ考ヘルコトガ出來ル。

次ニ年齢ニ就テハ胃潰瘍ニ於テ40歳ヨリ49歳ニ至ルモノ31.94%ヲ占メ最モ多ク、次デ30歳ヨリ39歳ニ至ルモノ27.67%デアツテ中年ニ甚シク多數デアアル。十二指腸潰瘍ニ於テモ40歳ヨリ49歳ニ至ルモノ36.84%、30歳ヨリ39歳ニ至ルモノ26.35%ヲ占メ中年以後ニ斷然多イ。シカシ乍ラ余等ノ實驗成績ヲ精細ニ觀察スルトキ十二指腸潰瘍ハ胃潰瘍ニ比シテ比較的若年者ニモ觀ラレルノデアツテコノ點ハ注意セラルベキ事實デアルト考ヘル。

第2節 潰瘍ト主訴トノ關係

第1項 胃 潰 瘍

胃潰瘍ト主訴トノ關係ハ第3表ノ如クデアアル。

第 3 表

病 名	主訴ノ種類	例 數 (%)	病 名	主訴ノ種類	例 數 (%)
胃 潰 瘍	空腹時上腹部痛	10(18.52%)	胃 潰 瘍	上腹部停滯感	3(5.56%)
	空腹時腹部痛	3(5.56%)		羸 瘦	2(3.71%)
	食後上腹部痛	18(33.40%)		貧 血	2(3.71%)
	食後腹部痛	3(5.56%)		吐 血	4(7.41%)
	上腹部膨滿感	4(7.41%)		腰 部 痛	2(3.71%)
	上腹部不快感	3(5.56%)			

第2項 十二指腸潰瘍

十二指腸潰瘍ト主訴トノ關係ハ第4表ノ如クデアル。

第 4 表

病 名	主訴ノ種類	例 數 (%)	病 名	主訴ノ種類	例 數 (%)
十二指腸 潰 瘍	空腹時上腹部痛	20(45.6%)	十二指腸 潰 瘍	上腹部停滯感	2(4.56%)
	空腹時腹部痛	2(4.56%)		羸 瘦	0
	食後上腹部痛	8(18.18%)		貧 血	3(6.82%)
	食後腹部痛	2(4.56%)		吐 血	0
	上腹部膨滿感	2(4.56%)		腰 部 痛	3(6.82%)
	上腹部不快感	2(4.56%)			

第3項 前各項ノ小括

胃潰瘍ニ於ケル主訴トシテハ食後上腹部痛ハ最モ多ク 38.4%ヲ占メ、之レニ次デ空腹時上腹部痛ハ 18.4%、又疼痛ヲ全然訴ヘズシテ上腹部膨滿感ヲ訴ヘタルモノ 7.41%ヲ占メ、又吐血ヲ主訴トセルモノ同ジク 7.41%ニ達シタ。次デ空腹時腹部痛、上腹部不快感、上腹部停滯感等ノ主訴ハ 5.56%、羸瘦、貧血、腰部痛等ハ夫々 3.71%デアツタ。

十二指腸潰瘍ニ於ケル主訴ハ胃潰瘍ニ於ケルト全クソノ趣キヲ異ニシテキル。即チ胃潰瘍ニ於テハ食後上腹部痛最モ多イノニ反シ十二指腸潰瘍ニ於テハ空腹時上腹部痛最モ多ク 45.6%ニ及ビ、之レニ次デ食後上腹部痛 18.18%デアル。尙貧血、腰部痛ヲ主訴トセルモノ各々 6.82%ニ及ビ、空腹時腹部痛、食後腹部痛、上腹部膨滿感、上腹部不快感、上腹部停滯感等ノモノハ夫々 4.56%ヲ占メテキル。十二指腸潰瘍ニ於テハ羸瘦又ハ吐血ヲ主訴トセルモノハ全例ヲ通ジテ皆無デアツタ。

第3節 潰瘍ト疼痛ノ性質トノ關係

第1項 胃 潰 瘍

胃潰瘍ニ於ケル疼痛ノ性質ハ第5表ノ如クデアル。

第 5 表

病 名	疼痛ノ性質	例數(%)	病 名	疼痛ノ性質	例數(%)
胃潰瘍	鈍 痛	22(40.72%)	胃潰瘍	牽引性痛	6(11.12%)
	刺 痛	14(25.74%)		灼熱性痛	4(7.41%)
	痙攣性痛	8(14.81%)			

第2項 十二指腸潰瘍

十二指腸潰瘍ニ於ケル疼痛ノ性質ハ第6表ノ如クデアル。

第 6 表

病 名	疼痛ノ性質	例數(%)	病 名	疼痛ノ性質	例數(%)
十二指腸潰瘍	鈍 痛	10(22.66%)	十二指腸潰瘍	牽引性痛	4(9.09%)
	刺 痛	20(45.45%)		灼熱性痛	3(6.82%)
	痙攣性痛	7(15.90%)			

第3項 前各項ノ小括

胃潰瘍ニ於ケル疼痛ノ性質トシテハ全例54名中鈍痛ノモノ22例(40.7%)デ最モ多ク、刺痛ノモノ14例(25.74%)之レニ次ギ、痙攣性痛ノモノ8例(14.8%)、牽引性痛ノモノ6例(11.12%)、灼熱性痛ノモノ4例(7.41%)デアル。

十二指腸潰瘍ニ於ケル疼痛ノ性質トシテハ全例44例中鈍痛ノモノ10例(22.66%)、刺痛ノモノ20例(45.45%)デ最多數ヲ占メ、コノ點ハ胃潰瘍ニ於ケル疼痛ト全ク相反シタル結果ヲ示スモノデアル。即チ胃潰瘍ニ於テハソノ疼痛ハ大半鈍痛デアリ、十二指腸潰瘍ニ於テハ約半數ニ於テ刺痛ヲ示シテキル。

尙十二指腸潰瘍ニ於テ痙攣性痛ノモノ7例(15.9%)、牽引性痛ノモノ4例(9.09%)、灼熱性痛ノモノ3例(6.82%)デアル。

胃潰瘍、十二指腸潰瘍共ニ痙攣性痛、牽引性痛、灼熱性痛ハ殆ド同様ノ率ニ於テ觀察セラレル。

第4節 潰瘍ト壓痛部位トノ關係

第1項 胃潰瘍

胃潰瘍ト壓痛部位トノ關係ハ第7表ノ如クデアル。

第 7 表

病 名	壓 痛 部 位	例數(%)	病 名	壓 痛 部 位	例數(%)
胃潰瘍	上腹部一般(廣汎性)	15(27.80%)	胃潰瘍	右 背 部	2(37.78%)
	右季肋下部	6(11.10%)		左 背 部	3(5.56%)
	左季肋下部	8(14.80%)		兩 背 部	0
	心窩部(正中部)	20(37.78%)			

第2項 十二指腸潰瘍

十二指腸潰瘍ト壓痛部位トノ關係ハ第8表ノ如クデアル。

第 8 表

病 名	壓 痛 部 位	例數(%)	病 名	壓 痛 部 位	例數(%)
十二指腸潰瘍	上腹部一般(廣汎性)	8(18.20%)	十二指腸潰瘍	右 背 部	2(4.55%)
	右季肋下部	17(38.60%)		左 背 部	2(4.55%)
	左季肋下部	2 (4.55%)		兩 背 部	1(2.35%)
	心窩部(正中部)	12(27.30%)			

第3項 前各項ノ小括

胃潰瘍ニ於ケル壓痛部位ハ全例54例中、20例(37.28%)ニ於テ心窩部デアツテ最モ多數ヲ占メ、之レニ次デ上腹部一般ニ壓痛ヲ訴フルモノ15例(27.8%)デアル。次ニ左季肋下部ノ8例(14.80%)、右季肋下部16例(11.10%)、又左背部ノ3例(5.56%)、右背部ノ2例(3.78%)デアル。

十二指腸潰瘍ニ於ケル壓痛部位ハ全例44例中、最モ多數ヲ占ムルノハ右季肋下部17例(38.6%)デアツテ、心窩部(正中部)ノ12例(27.3%)之レニ次ギ、上腹部一般ニ壓痛ヲ訴フルモノ8例(18.28%)、左季肋下部、左背部、右背部夫々2例(4.55%)、兩背部1例(2.35%)デアル。

即チ胃潰瘍ニ於ケル壓痛部位ト十二指腸潰瘍ニ於ケル壓痛部位トハ大約ソノ解剖學的位置ニ相當シテ觀察セラレルガ時ニハ又全然相反スル部位ニ於テ壓痛ヲ證明スルコトガアルノデ單ニ壓痛部位ヲ以テ潰瘍ヲ決定スルコトハ正當デナイ。

第5節 潰瘍ト過酸症狀トノ關係

第1項 胃 潰 瘍

胃潰瘍ト過酸症狀トノ關係ハ第9表ノ如クデアル。

第 9 表

病 名	過 酸 症 狀	例數(%)
胃 潰 瘍	嘈 噯	18(33.4%)
	吞 酸	20(37.0%)
	噯 氣	16(29.6%)

第2項 十二指腸潰瘍

十二指腸潰瘍ト過酸症狀トノ關係ハ第10表ノ如クデアル。

第 1 0 表

病 名	過 酸 症 狀	例數(%)
十二指腸潰瘍	嘈 噯	18(40.9%)
	吞 酸	16(36.4%)
	噯 氣	10(22.7%)

第3項 前各項ノ小括

胃潰瘍＝於ケル過酸症狀トシテハ全例54名＝就テ觀ル＝吞酸ヲ訴フルモノ20例(37.0%)デ最多數ヲ占メ、嘔噓ヲ訴ヘルモノ18例(33.4%)デアツテ之レニ次イデキル。シカシ乍ラ嘔噓並ニ吞酸ノ兩症狀ヲ合併スルモノ多數デアツテ、嘔氣ヲ訴フルモノ16例(29%)デアル。

十二指腸潰瘍＝於ケル過酸症狀トシテハ全例44名＝就テ觀ル＝嘔噓ヲ訴ヘルモノ18例(40.9%)デ最多數ヲ占メ、次デ吞酸ヲ訴フルモノ16例(36.4%)、嘔氣ヲ訴フルモノ10例(22.7%)デアル。十二指腸潰瘍＝於テモ亦胃潰瘍ト同様ニ嘔噓ト吞酸ヲ共ニ訴フルモノ可成リ多數デアル。

第6節 潰瘍ト食慾並ニ便通トノ關係

第1項 胃潰瘍

胃潰瘍＝於ケル食慾並ニ便通トノ關係ハ第11表ノ如クデアル。

第 1 1 表

病名	食慾並ニ便通	例數(%)	病名	食慾並ニ便通	例數(%)
胃潰瘍	佳良	17(31.5%)	胃潰瘍	普通	18(33.4%)
	普通	27(50.0%)		便秘	30(55.5%)
	不良	10(18.5%)		下痢	6(11.1%)

第2項 十二指腸潰瘍

十二指腸潰瘍＝於ケル食慾並ニ便通トノ關係ハ第12表ノ如クデアル。

第 1 2 表

病名	食慾並ニ便通	例數(%)	病名	食慾並ニ便通	例數(%)
十二指腸潰瘍	佳良	15(34.1%)	十二指腸潰瘍	普通	7(15.9%)
	普通	15(34.1%)		便秘	33(75.0%)
	不良	14(31.8%)		下痢	4(9.1%)

第3項 前各項ノ小括

胃潰瘍ト食慾ノ關係ヲ全例54名＝就テ觀ルニ、食慾普通ノモノ大半デ27例(50%)ヲ占メ、食慾佳良ノモノ17例(31.5%)、食慾不良ノモノ10例(18.5%)デ胃潰瘍＝於テハ食慾普通乃至ハ佳良ノモノ多數デアツテ食慾不良ノモノハ余等ノ場合ニ於テハ極メテ小數デアル。

十二指腸潰瘍ト食慾トノ關係ハ全例44名＝就テ觀察スルニ食慾普通ノモノ15例(34.1%)、佳良ノモノ15例(34.1%)デアツテコノ兩者ハ各々同數デアル。又不良ノモノ14例(31.8%)デ十二指腸潰瘍ノ場合ニハ食慾佳良、普通、不良ノ三者略同數ヲ算シテキルト觀ナケレバナラナイ。

第7節 潰瘍ト便通トノ關係

第1項 胃潰瘍

胃潰瘍ト便通トノ關係ハ第13表ノ如クデアル。

第 1 3 表

病 名	便 通	例數(%)
胃 潰 瘍	普 通	18(33.4%)
	秘 結	30(55.5%)
	下 痢	6(11.1%)

第2項 十二指腸潰瘍

十二指腸潰瘍ト便通トノ關係ハ第14表ノ如クデアル。

第 1 4 表

病 名	便 通	例數(%)
十 二 指 腸 潰 瘍	普 通	7(15.9%)
	秘 結	33(75.0%)
	下 痢	4(9.1%)

第3項 前各項ノ小括

胃潰瘍ニ於ケル便通ノ關係ヲ全例54名ニ就テ觀ルニ普通デアルモノ18例(33.4%)デ、秘結スルモノ30例(55.5%)デ最モ多數ヲ占メ、下痢セルモノ6例(11.1%)デ最モ少イ。而シテ秘結スルモノニ於テハ甚シキハ6—7日ニモ及ブモノアルモ大多數ニ於テハ2—3日ニ1回ト云フコトニナツテキル。又下痢スルモノニ於テハ大抵1日1—2回デアツテ1日4—5回ト云フ様ナ例ハ皆無デアル。

十二指腸潰瘍ニ於ケル便通ノ關係全例44名ニ就テ觀ルニ普通ノモノ7例(15.9%)デ、秘結スルモノ斷然多ク33例(75%)ニ達シ、下痢セルモノ4例(9.1%)デアツテ、十二指腸潰瘍ニ於テモ亦秘結スルモノハ大多數ニ於テ2—3日ニ1回ト云フ程度デアル。

要スルニ胃潰瘍及ビ十二指腸潰瘍ニ於テハ共ニ秘結スルモノ大多數デアツテ下痢ニ傾クモノハ極メテ少數デアル。

第4章 總 括

以上ノ成績ヲ總括スルニ

- 1) 胃並ニ十二指腸潰瘍ハ女子ヨリモ男子ニ多ク年齡的ニハ生活方法ガ潰瘍發生ノ誘因ヲナスト考ヘラレ中年並ニ壯年ニ最モ多イ。
- 2) 疼痛ノ種類トシテハ鈍痛ハ胃潰瘍ニ多ク、刺痛ハ十二指腸潰瘍ニ多イ。
- 3) 疼痛發作ハ胃潰瘍ニ於テハ食後ノコト多ク、十二指腸潰瘍ニ於テハ空腹時ノコトガ多イ。
- 4) 壓痛點ハ潰瘍部ニ一致スルコトガ多イ様デアル。

- 5) 過酸症状トシテ嘔嘔，吞酸ヲ共ニ訴ヘルモノ多數デアアル。
- 6) 食欲ノ關係ヲ觀ルニ胃潰瘍ニ於テハ食欲普通乃至佳良ノモノ多數デ食欲不良ノモノハ極メテ少ク，十二指腸潰瘍ニ於テハ食欲佳良，普通，不良ノモノ三者略同數デアアル。
- 7) 便通ノ關係ヲ觀ルニ胃潰瘍並ニ十二指腸潰瘍ニ於テハ秘結スルモノ大多數デアツテ下痢ニ傾クモノハ極メテ少數デアアル。

(文獻後出)